

はじめての鉄棒実践

北河内ブロック 大西朱夏

1. はじめに

みなさんは、「鉄棒」という言葉から、何をイメージしますか。私のイメージは、一人で黙々と練習し、手に豆を作り、痛い思いをしながらするもの＝楽しくない・苦しい鉄棒でした。今年から、研究部に入ることになり、「楽しい鉄棒がしたいな～」という安易な思いから、鉄棒実践をすることにしました。時期は、10月～12月まで。「12月は寒いからやらなくてもいいや～」と思っていましたが、結果、子どもたちはガクガク震えながらも、12月終業式まで「やりたい！」と鉄棒をしていました。

2. アンケートから授業のねらい設定へ

クラスはとっても元気な（元気すぎるほどの）2年生の25名です。まず、アンケートをとって、子どもたちの鉄棒への思いを知ることから始めました。意外にも、鉄棒好きは22名（その内3名は、嫌いから好きに変えていました。）嫌いな子は3名。理由は、「できなかつたら、バカにされるから。」「落ちたら怖いから。」「逆上がりができないから。」でした。そして、できるようになりたいことを聞くと…予想通り、「逆上がりができるようになりたい。」がほとんど。「あ～逆上がりだけじゃないのになあ…いろんな技に挑戦してほしいなあ」と思い、授業のねらいを考えていきました。

- ①鉄棒＝逆上がり」の固定概念を崩したい。 → 「技集め・発明技」に取り組む。
- ②鉄棒でしか体験できない技に取り組む。 → 後ろ振りとび（後ろへ跳ぶ・体の反り）、すわり（バランス感覚）、ストロンチョ（地獄回り下り）（逆さ感覚・非日常体験）、スキー下り（高さ感覚）
- ③一人ではなく、友だちと一つの鉄棒表現を考える。 → グループでの「お話鉄棒」

3. 環境設定・グループ学習

アンケート結果から、鉄棒に対する「怖さ」を持っている子どもたちがいることがわかったので、環境設定が大切になると考えました。授業では、必ずマットをひき、帽子をかぶらせました。そして、鉄棒カバーを取り付けて、痛みに対してもフォローしました。マットがあるだけで、「落ちてても痛くない。」と安心できるのか、チャレンジしようとする姿が増えました。そして、だんだん熱中してくると、「鉄棒カバーがじゃま。」と外す子どもが増え、最終的にはカバーなしで取り組んでいました。また、一人でする学習って、苦しいし、楽しくない…できなかつたら、心が折れそうになります。そこで、グループ学習・グループごとにお話鉄棒に取り組むことにしました。アドバイスをしている子、上手に補助をしている子を紹介し、「友だちと一緒にコツを見つけたらできる！」と実感できるようにしました。

4. 授業計画（全13時間）

- ① 10/5 鉄棒運動について知る。アンケートを書く。
- ② 10/19 鉄棒には、いろいろな技があることに気づく。→発明技作り
- ③ 10/26 腕で体を支え、身体を振って跳ぶ動作を身に付ける。（後ろ振りとび）
- ④ 10/29 体全体でバランスをとり、鉄棒に座る。お話鉄棒①に取り組む。
- ⑤ 11/2 後ろ振りとびの中間測定をする。
- ⑥ 11/5 足抜き・尻抜き回りができる。お話鉄棒①の表現の工夫を考え、発表会をする。
- ⑦ 11/9 （教室）鉄棒学習のまとめの発表会の仕方を話し合う。
- ⑧ 11/12 鉄棒に両足で立ち、飛び降りる。（スキー下り）お話鉄棒②に取り組む。
- ⑨ 11/16 お話鉄棒②で、スムーズに技をつなげるコツ・順番を考える。
- ⑩ 11/21 とびとび大会（後ろ振りとび）をする。
- ⑪ 11/30 ⑫12/7 お話鉄棒②で、表現の工夫やスムーズにできるコツを見つける。
- ⑬ 12/14 まとめの発表会をする。振り返りシートを書く。

5. 子どもたちの様子・実践の振り返り

アンケートで鉄棒が「嫌い」と言っていた子どもたちが、毎日のように、休み時間にも自ら鉄棒をしに行くようになりました。他の先生にも、「2年生、むっちゃ鉄棒してるね！しかも楽しそう！」と言われました。きっかけは、②時間目の「技集め・発明技」に取り組んでからだと思います。1人での発明技が発展して、2人技や連続技を考えるなど、大ブームになりました。子どもたちの最後の振り返りでも、「自分で技が作れて、やったことがなかったから楽しかった。」「発明技を考える時が、何にしようと思ったのが楽しかった。」と書いている子が多くいました。鉄棒の楽しさ・面白さに気づけたら、自然と鉄棒をする時間が増えて、技術習得・コツ見つけ→できた！楽しい！→次に挑戦！…と、相乗効果がありました。

実践で悩んだのは、「お話鉄棒②をどうするのか。」です。こちらが決めた物をそのままするのは面白くない…たくさんの発明技をどうにか使えないか、レベルの高い技に取り組みたい子も楽しめるお話鉄棒をどうするのか…悩んで悩んで考えたのが、「技をいくつか提示して、その中から自分にあった技を選んでもらう」形式でした。そうすると、全員が同じ技をするわけではないので、グループでやる意味がなくなっていました。その代わりに、表現の工夫をすることはできます。どちらをとるのか…答えは出ていませんが、子どもたちは自分たちの発明技が使えたことに満足感をもって、楽しく取り組んでいました。これ以外にも改善点は多くありますが、次はこうしたい！と思える、良い経験になりました。関近ブロックでもいろいろとご教授いただけたらと思います。

